

ベッコウトンボの保護対策

(1) 種名 (学名)

ベッコウトンボ (*Libellula angelina*)
環境省 RL2018：絶滅危惧 IA 類 (CR)
国内希少野生動植物種 (H6 指定)
保護増殖事業計画 (H8 策定)：但し、
事業区域は鹿児島県蘭牟田池



(2) 生態の概要

- ・ 成虫の体長は約 38mm で、羽を広げた大きさは 7cm 程度です。
- ・ 4 枚の翅にはそれぞれ明瞭な褐色斑があります。
- ・ 1 年 1 世代で成虫は 3 月下旬から 5 月に発生 (羽化) し、6 月まで成虫が観察できます。
- ・ 羽化後 10～14 日まで、未熟成虫の体色はベッコウ色で、その後、成熟成虫のオスは黒褐色、メスは暗褐色になります。
- ・ 開けた水面が少なく、ヨシやヒメガマなどの植生がよく茂った浅いため池などをすみかとして好んで利用しています。

(3) 分布状況の概要

- ・ 日本、中国、朝鮮半島に生息しています。
- ・ 国内では 1970 年代には東北地方から九州まで広範囲に確認されていました。
- ・ 平成 6 (1994) 年の国内希少野生動植物種指定当時には 10 県 23 カ所と確認地点が大きく減少していました。
- ・ その後も生息地の消失が続き、平成 27 年には 5 県 (静岡県、山口県、福岡県、大分県、鹿児島県) 11 カ所に減少しています。



全国におけるベッコウトンボ生息地点の変化

(4) 減少の要因

ベッコウトンボにとって好適なため池の環境は、植生の遷移によって不適な環境へと変化してしまいます。人間活動によって維持されてきたため池の環境は、人間活動が減退すると維持できなくなってしまう。

(5) 中国四国地方環境事務所の取組

中国四国地方環境事務所では平成 28 年度に地域の保護活動団体「山口県ベッコウトンボ調査グループ」から生息情報を収集し、平成 29 年度には平成 28 年度に得られた情報を基に本種の生態や生息環境等を紹介したパンフレットを作成しました。

(6) 他機関、NGO 等の取組

山口県における本種の生息状況の把握はこれまで山口県ベッコウトンボ調査グループが実施してきました。山口市や宇部市、山陽小野田市、下関市などの小個体群では、各地域個体群において未確認地点が増えて、現在、主要な生息地は阿知須干拓及び乃木浜の 2 地点のみとなっています。

平成 30 年度、日本トンボ学会は環境省と協力して、生息地である山口県立きらら浜自然観察公園（山口県山口市）において増殖のための採卵・飼育を実施しています。

(7) 課題

ベッコウトンボは継続的な管理がされている二次的自然に生息していますが、管理不足（放置）に伴う生息環境の悪化が、個体数の減少を招いていると考えられています。また、オオアカウキクサやアメリカザリガニなど外来種による影響も考えられることから、各地における対策の実施と体制の強化が求められています。

(8) その他（参考文献、HP 等）

H29 中国四国地方事務所作成のパンフレット「国内希少野生動植物種山口県のベッコウトンボ」

